



▲中郷中学校の皆さんと



▲再建された六角堂



▲お世話になった北茨城市まちづくり協働課の皆さんと

中学生派遣事業 現地レポート

学校新聞特派員 〜姉妹都市北茨城市〜

8月5日、6日の2日間、中野平中学校3年の芋川史貴さん、山崎萌々子さん、堀籠怜哉さんの3人が「学校新聞特派員」として姉妹都市の茨城県北茨城市取材しました。3人がまとめた報告書の中から、一部をご紹介します。



野口雨情と中山晋平のつながり

北茨城出身の作詞家野口雨情は、明治15年(1882)5月29日、茨城県多賀郡磯原村(現北茨城市磯原町)で長男として生まれ、少年時代から文学的素養にとみ、回覧雑誌への連載のため民謡風の詩作をしていたといわれています。大正8年には児童雑誌に童謡作品の発表を開始します。「船頭小唄」を作詞し、中山晋平に作曲を依頼したのもこの頃です。これがきっかけとなり、後に全国各地で開かれた野口雨情の講演会に中山晋平は必ず同行するというほど

深いつながりとなりました。次に僕たちが訪れた、野口雨情記念館では初めて知るところも多く、運動会でおなじみの「中野小唄」も作詞されていたと知りました。僕は、北茨城訪問をきっかけに野口雨情さんを知りました。なので今回の体験により野口雨情とはどんな人物なのか中山晋平との繋がりはどういったものなのかを知ることができ勉強になりました。

(芋川史貴)

震災の復興状況について

震災前、北茨城市五浦海岸には五浦六角堂という国の登録有形文化財にも指定されている建物がありました。東日本震災による津波の被害を受け、一度は土台だけを残して消失してしまいました。しかし、今回僕たちがこの海岸を訪れた時には、六角堂は前とそう変わらない様な形で建っていたのです。これには、現地の方々の復興に対する努力と想いの強さが垣間見えて、諦めない気持ちと活気を肌で感じる事ができました。この様に少しでも復興に近付きつつある現地は、地元の人たちの諦めない気持ちを感じられ、この様子を少しでも中野市の人に伝えられることが出来たら良いな、と思いました。

(堀籠怜哉)

学校新聞特派員を終えて

北茨城市に着いて、まず中郷中学校の生徒会の皆さんと交流させて頂きました。中郷中学校の部活動や年間行事、1日の生活について詳しく発表していただき、中野平と違う点を多く見つけることが出来ました。お互い緊張して

たのですが、用意していただいたすごろくトークで徐々に打ち解け、お別れの時は、とても名残惜しかったです。

次に、野口雨情記念館を見学しました。野口雨情さんの歴史や、中山晋平さんとの出会いについてお話しいただきました。2人の出会いがあったからこそこうして北茨城市の皆さんと交流することが出来たので、野口雨情さんと中山晋平さんに感謝したいと思います。

2日目には、「ガラス工房シリカ」さんで、コップ作りを体験させていただきました。作業中は、ガラスや窯からの熱で工房内がとても暑かったです。一つ一つの作業もとても細かく、集中力が多く必要でした。作業が終了した時のガラスは、私がいつも使っているような形になっていて、とても感動しました。

この2日間、とても楽しく北茨城市について知ることが出来ました。この2日間で見学したところを、大人になっても訪れることが出来たら良いなと思います。

(山崎萌々子)





▲原爆ドーム



▲献花の様子



▲翠町中学校と連帯旗の交換

被爆地派遣員 （広島市）

8月4日から6日までの3日間、南宮中学校3年生の宮嶋太陽さん、阿部雅哉さん、佐藤未侑さん、阿部佑奈さんの4人が「平和使節」として、被爆地の広島県広島市を訪問しました。
4人がまとめた報告書の中から一部をご紹介します。

広島市立翠町中学校

ヒロシマ青少年平和の集い



翠町中学校は南宮中学校と似ていて、同じくらいクラスの数がありました。平和交流会では今までそれぞれの学校でどのような平和学習をしてきたかなど、自己紹介や学校紹介を入れながら発表しました。

平和の集いでは「伝えていくこと」をテーマにしてワークショップが行われました。ワークショップの前には、宇佐川弘子さんから広島市の原爆被害について、寺本貴司さんからは被爆体験の証言をお聞きしました。そこでは平和記念資料館一階ロビーにあるローマ法王平和アピール碑が取り上げられていました。「戦争は人間の仕業です。戦争は人間の命を奪います。戦争は死そのものです。過去を振り返ることは、将来に対する責任をなうことです。ヒロシマを考えることは、核戦争を拒否することです。ヒロシマを考えることは、平和に対して責任を取ることです。」こ

翠町中学校からは「空白の学簿簿」について発表がありました。僕たちからは「青い目の人形」というお話について発表させてもらいました。この発表を通して、お互いにまだ知らなかったことがあり、より平和についての考えを深めていくことができました。最後には翠町中学校の慰霊塔に献花、黙祷をさせてもらい、平和交流会が終わりました。

の平和アピール碑は、広島にきた人々を刺激し、平和に対して大きな影響を与えるものだと思います。70年前にあった事実を聞かせていただき、戦争は私たちが思っている以上に悲惨であることを知りました。体験者の「生きたまま焼け死ぬ」という言葉が胸にしみます。ですが、体験者から体験談を聞くのは私たちが最後の世代になるかもしれない。ワークショップでは、どうやって今まで受け継がれてきた平和への思いを伝えていくかグループになって話し合い、様々な考えが発表されました。

平和祈念式典

8月6日に平和祈念式典に参加させていただきました。広島平和記念公園の原爆慰霊碑には「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませんが、私たちから」という言葉が刻まれています。その言葉には、多くの人々の願いが込められていると思います。あの悲劇を、もう二度と日本で、世界で繰り返さないためにも、私たちがのような若者たちが平和の大切さをもう一度学び、世界に、未来に広げていかななくてはならないと思いました。

今回、被爆（戦後）70年という特別な式典に出られたこと、この3日間で貴重な体験ができたことを嬉しく思います。また、実際に見て、体験することで原爆の悲惨さや平和のありがたさを改めて感じることができました。そして、世界中から争いや戦争をなくして、戦争で亡くなったすべての人々に、平和になった世界を見ることが私たちの使命だと式典に参加したことで感じる事ができました。

3日間を通して

この3日間を通して戦争の悲惨さや、戦争は人々の感情までも奪ってしまうものだと身をもって感じました。

被爆体験者の方も年々減ってきていて、直接お話を聞けるのも私たちが最後になってしまうといわれている今、私たちがその思いを伝えていく必要があります。

「平和」を築くためには「事実」を知り、伝えていくことが必要です。戦争、核兵器の悲惨さも、知らなければまた繰り返してしまいます。毎日当たり前のように過ごせることに感謝し、悲惨な事実と平和の尊さをより多くの人に発信していきたいです。

